



博物館だより

No. 216 2013. 4

ミニミニマインズ

平成25年度企画展「^{こう}鑛のきらめき」開催



魚眼石

日時 平成25年4月3日(水)～5月19日(日)
10:00～18:00(金・土は20:00まで)

会場 新秋田県立美術館 1Fギャラリー

入場料 無料



ノーティルス(オウムガイ)の縦断面

現在、新秋田県立美術館にて平成25年度企画展「鑛のきらめき」を開催しています。今回は特に色と形に注目して、見ているだけで美しい、楽しい標本を選びました。縦長の会場中央に全長9mの阿仁鉱山絵図を配し、周囲には鉱石や化石、模型など当館選りすぐりのコレクションを展示しています。ライトアップされていてさう輝きを増した標本を、美術館ならではのゆったりとした空間で楽しむことができます。連日多くの見学者が訪

れ、思い思いに鑑賞する様子が見られました。企画展で鉱業博物館を知り、当館に足を運んでくださる方も増えました。

また4月21日(日)には「天然鉱石から生まれた岩絵の具」というタイトルで日本画家の村上祐二氏による講演会を開催しました。自ら天然鉱石を厳選して砕き、こだわりの色を創り出すことなど貴重なお話をしてくださり、新たな石の魅力を知ることができました。



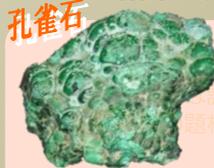
顔料となる鉱石を前に講演する村上氏



週末は100人を超す見学者が訪れている



精巧な模型に興味津々



孔雀石



村上氏に解説する西川博物館専任講師

村上氏は講演の中で、特に「孔雀石」を取り上げ、日本画の題材として描かれることの多い「松」を表現する深い緑色として貴重であることをお話しされました。企画展で展示されている孔雀石に特に注目して、「顔料としてこれほどの色鮮やかさを持つ鉱石は稀だ」と、「鉱石」に対する新鮮な切り口を示してくださいました。

企画展展示物の中から

ターリー式 石炭ガス化装置模型

ターリー式ガス発生装置は、石炭のガス化に成功した画期的な装置です。装置の左側がガス化炉で、右側がガス処理装置です。ガス化装置とは、高温で石炭を不完全燃焼させ、燃料ガスとして一酸化炭素を発生させる装置です。この模型は大正時代に製作されたもので、無駄を排した実機ならではの機能美と、それを精緻



に再現したモノとしての美しさを見いだすことができます。

この他にも当館が所蔵する多数の鉱山設備模型のコレクションは、日本の近代化を支えた技術の一端を見ることができる大変貴重なものです。ぜひ一度ご覧ください。

天青石 (てんせいせき)



涼やかな青色を帯びた透明な鉱物です。英名のセレストライトはその色にちなんで“すばらしい”という意味のラテン語に由来します。和名の「天青石」は空のような澄んだ青色の意です。天青石からとれるストロンチウムは、炎を真っ赤にするので花火に用いられています。当館ミュージアムショップでも人気の鉱石です。

方解石 (ほうかいせき)

鍾乳洞の中のつららのような石や、古代エジプトの彫刻に使われた大理石は方解石でできています。紫外線を当てると赤やピンクに光る蛍光性を持ったものもあります。また透明な結晶はものを二重に見せる性質があります。



平成25年度 サイエンスボランティア決定

今年度は新たに4人のメンバーをお迎えして、32名でのスタートとなりました。4月2日(火)には、現在開催している平成25年度企画展の前披露を兼ねて新秋田県立美術館にて案内講習を行いました。さっそく企画展で活動を開始し、見学の方から「展示説明していただいてよかった」、「博物館にも行ってみたい」などの声が届いています。

1年間どうぞよろしくお願いたします。

顔料として使われる鉱石のコーナーにて、解説を受けるサイエンスボランティアの皆さん



平成25年度
第1回

サイエンスボランティア講習会

開催のお知らせ

「物理探査装置の案内実習」

日時 平成25年4月25日(木)
15:30~16:30
会場 鉱業博物館3F 講堂
講師 西谷 忠師 鉱業博物館長

今年度第1回目の講習会
を上記日程で開催します。



黒鉱文鎮 好評です

前月号でお知らせいたしました鉱業博物館オリジナルの黒鉱文鎮は完売となりました。

3月22日(金)付の秋田さきがけ新報でも取り上げられ、秋田大学OBの方や全国各地の黒鉱ファンからも、広くお問い合わせがありました。要望にお応えして4月22日(月)より再販をスタートしました。ミュージアムショップで取り扱っています。



入館料改訂のお知らせ

平成25年4月1日(月)より入館料が改定になりました。

個人・団体にかかわらず、大人1名100円になりました。高校生以下の方は引き続き無料、また秋田大学生や卒業生の方、職員についても無料で見学できます。



無料開放のお知らせ

- 5/10(金) 地質の日
- 5/18(土) 国際博物館の日
- 5/19(日) ※前日と合わせて週末を無料開放します



地質の日

私たちの暮らしている大地のことを「地質」と呼びます。地質はさまざまな鉱産資源やエネルギーによって私たちの生活を豊かにし、環境面でも大きな役割を果たしています。その反面、地震や火山噴火などの活動が大きな災害を引き起こすこともあります。人間社会と深く関わっているこのような「地質」を理解することは、より豊かな暮らしを手に入れるとともに、地球や環境を大切にすることにもつながります。地質の日は、この地質への理解を推進する日として、2008年に制定されました。当館では例年無料開放を実施しています。

国際博物館の日

博物館の役割を広く人々に知ってもらうため1977年に国際博物館会議において5月18日を国際博物館の日としました。日本でも2002年に初めて参加して以来、多くの博物館が種々の記念事業を実施しています。当館の取り組みとしては多くの方に見学していただき、博物館の魅力に触れていただくこと無料開放を実施しています。今年度は土曜日にあたる5月18日の国際博物館の日と、翌日の日曜日を無料開放いたします。



平成24年度
集計

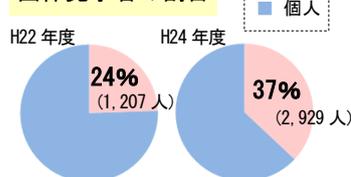
たくさんのご来館ありがとうございました

平成24年度の入館者数は7,914人でした。リニューアル前の平成22年度入館者数の4,936人と比較して、約60%の増加となりました。

特に大人と団体見学者の増加が入館者数を押し上げています。大人の入館者数は6,417人で、入館者数に占める大人の割合は平成22年度の約72%に対し約81%となっています。また団体入館者数は平成22年度の約2.4倍、約1,700人増となりました。町内会やサークル、職場のグループで見学するケースが目立ちました。また特別展「秋田の古銭」や企画展「山本作兵衛氏 炭坑記録画展」なども大変好評で、新規来館者の開拓につながりました。

現在、新秋田県立美術館と連携した出張展示という初の試みを行っています。引き続き今後もユニークな展示を企画し、多くの方に鉱業博物館に親しんでもらいたいと考えています。

団体見学者の割合



鉱業博物館入館者数

